

## 第4章 人口の将来展望—香芝市人口ビジョン

### 1. 市の将来を展望するにあたっての人口推計

#### (1) 人口ビジョンとしての推計の考え方

香芝市の現状に基づく人口推計については、社人研に準拠した推計をすでに示しています。これは、人口の維持、出生率の向上、転出入の改善等について、現状のままの状況が続くと仮定した場合のものと言えます。

これまで見てきたように、本市の人口の現状と、そこから導かれる人口推計は、非常に厳しい将来像を示唆するものとなっています。このままでは、本市の人口は2035年をピークに減少に転じることが予想されています。まちの活力を維持し、住みやすい豊かなまちとして次の世代に引き継ぐためには、人口問題に正面から向き合い、市を挙げて取り組むことが求められます。

今後、本市においても、「香芝市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき、人口維持のための各種の施策が計画されています。人口の将来を展望するにあたっては、こうした施策の効果を見込み、市として目指すべきビジョンとしての人口推計を行う必要があります。

そこで、本市のビジョンとして、次のような目標と仮定に基づく人口推計を行います。

#### 香芝市人口ビジョンの考え方

達成目標人口	2060年に85,000人の人口規模を維持
推計の基本的な考え方	上記の目標人口を達成するために、施策効果として、自然増減と社会増減について以下の仮定を採用します。
自然増減に関する仮定	合計特殊出生率が2025年までに1.8、2030年までに2.1に回復すると仮定します。
社会増減に関する仮定	2005年～2010年の純移動率が2015年～2020年までに定率で0.5倍縮小し、その後はその値で推移する（社会増を維持する）と仮定します。

#### (2) 人口ビジョンにおける仮定の設定根拠について

##### ①自然増減に関する仮定

国の長期人口ビジョンにおいては、合計特殊出生率を2030年までに1.8、2040年までに人口置換水準とされる2.07まで回復することを見込んでいます。香芝市については、ベッドタウンという特性上、20歳代、30歳代の若年層における有配偶率が高く（独身者が少なく）、子どもをもつ女性の比率が高い傾向にあるため、合計特殊出生率は高く算出されやすいという傾向があります。実際、平成20年～24年の合計特殊出生率は、全国・奈良県を上回っています。

また、市民意識調査の結婚・出産に関する設問について、若年層の回答状況を分析したところ、有配偶者が予定している子どもの数は全国平均をやや下回る一方で、有配偶者が理想

とする子どもの数は、全国平均を上回っており、出生率の改善可能性は大きいことがうかがえます。市民意識調査結果に基づき、持ちたい子ども数について、若年層の希望がかなえられたと仮定したときの合計特殊出生率を試算すると 2.36 となります。

以上のことから、子育て支援策の充実等を通じて若年層の出産・子育ての希望がかなうまちづくりを進めることで、出生率の大幅な向上を図ることは十分可能だと考えられます。

## ②出生率に関する補足事項

市民意識調査において、若年者（39 歳以下）の有配偶者（問 31「結婚している」）の理想子ども数（問 34①）、予定子ども数（問 34②）、現在の子どもの数（問 34③）、独身者（問 31「結婚したことはない」または「配偶者と離別・死別したまま」）の理想子ども数（問 34①）、現在の子どもの数（問 34③）の平均値は以下の表の通りです（独身者の予定子ども数については全国調査では尋ねておらず、本調査でも無回答が多いため除外しています）。全国調査と比較すると、理想子ども数は全国より高くなっており、全国的な状況と比較して香芝市の若年者は、子どもを多く持つことを希望していることがうかがえます。一方で、予定の子ども数は全国より少なくなっています。

この結果から香芝市の若年世代のコーホート合計特殊出生率（同一世代に属する女性が一生に生む子どもの数）を推計すると、1.71 となり、さらにこの世代の理想が十分がかなえられると仮定した場合は 2.36 まで上昇します。人口動態保健所・市町村別統計によると、平成 20 年から平成 24 年の香芝市の合計特殊出生率は 1.57 となっており、今後上昇の余地があると考えられます。

有配偶者	理想子ども数	予定子ども数	現在の子どもの数
香芝市	2.56	2.06	1.56
全国	2.41	2.15	1.49

独身者	理想（希望）子ども数	現在の子どもの数
香芝市	2.07	0.18
全国	1.86	-

※いずれも 39 歳以下の回答で比較。全国調査では独身者については「希望の子ども数」と表現されている。なお、全国調査については、有配偶者の年齢は妻の年齢を基準としているため、本調査とは若干のずれがあることが考えられる。

### ◎市民意識調査から算出される若年者（39 歳以下）のコーホート合計特殊出生率の推計値

※有配偶者については予定子ども数が達成されると仮定。独身者については、出生子ども数に加えて、希望子ども数の半分が達成されると仮定。

若年者（39 歳以下）合計特殊出生率

$$= \{A \times C + (D + E \times 0.5) \times F\} / (C + F)$$

$$= \{2.06 \times 125 \text{ 人} + (0.18 + 2.07 \times 0.5) \times 87 \text{ 人}\} / (125 \text{ 人} + 87 \text{ 人}) = \underline{\underline{1.71}}$$

◎若い世代の希望がかなえられた場合のコーホート合計特殊出生率の推計値

※有配偶者については理想子ども数が達成され、独身者については希望子ども数が達成されると仮定。

若年者（39歳以下）の合計特殊出生率

$$= (B \times C + E \times F) / (C + F)$$

$$= (2.56 \times 125 \text{人} + 2.07 \times 87 \text{人}) / (125 \text{人} + 87 \text{人}) = \underline{\underline{2.36}}$$

A：有配偶者予定子ども数（問 31②）

D：独身者出生子ども数（問 34③）

B：有配偶者理想子ども数（問 34①）

E：独身者理想子ども数（問 34①）

C：有配偶者数（問 31）

F：独身者数（問 31）

③社会増減に関する仮定

国立社会保障・人口問題研究所（社人研）推計に基づく仮定となっています。2005年～2010年の純移動率が2015年～2020年までに定率で0.5倍縮小する仮定となっていますが、香芝市の2015年までの人口の推移をみると、純移動では社人研推計をやや上回っています。今後、純移動率の低下や、高齢層の都心回帰等による純移動の低下の恐れがありますが、定住促進策を充実させるとともに、子育て・教育の充実と住みよいまちづくりを通じて、若年層に選ばれるまちづくりを進めることで、純移動を維持することが可能だと考えられます。

（3）人口の将来展望

香芝市人口ビジョンの目標と仮定に基づいた人口推計は次のようになります。総合戦略の推進によって人口維持を図り、2060年に人口約85,000人を維持することを目指します。

香芝市人口ビジョン

